

(7) 核燃料サイクルを巡る最近の動き

核燃料サイクルの実現に向けた着実な進展が見られる。

六ヶ所再処理工場	青森県六ヶ所村に建設してきた再処理工場において、2006年3月に実際の使用済燃料を用いた最終的な試験(アクティブ試験)を開始。 2007年に操業開始予定。
MOX燃料工場	2005年4月に青森県及び六ヶ所村は日本原燃との間で 立地基本協定を締結 。現在、事業許可の安全審査中。2007年中を目途に着工、2012年から操業開始予定。
プルサーマル	九州電力玄海原子力発電所、四国電力伊方発電所でのプルサーマル実施に対し地元了解 。その他、複数の電力会社で安全審査が進むなど着実に進展。(詳細は後述)。
中間貯蔵施設	東京電力及び日本原子力発電により設立されたりサイクル燃料貯蔵(株)が青森県むつ市に建設を計画。 2005年10月、青森県及びむつ市が立地を受け入れ。2010年までに操業開始予定。
もんじゅ (高速増殖炉の原型炉)	改造工事着手について2005年2月に福井県及び敦賀市が了解。5月に最高裁判決で国側勝訴が確定。今後、 改造工事を行った上、2年後を目途に試運転再開の予定。
高レベル放射性廃棄物 最終処分施設	2007年1月、高知県東洋町が、文献調査の候補地としてはじめて応募。その他、関心を有する複数の地域からの照会あり。原子力発電環境整備機構(NUMO)が各地域での理解促進活動を続けている。
「再処理積立金法」の成立	2005年通常国会で六ヶ所再処理工場などに要する約12.6兆円の費用を積立てるための法律及び税制が成立(自民党、公明党、民主党賛成)。 2005年10月より施行。